



手をつないでゴールする親子たち

師走の八幡を駆ける



スタートの号砲で一斉に走り出すランナーたち

市民マラソン大会

八幡の師走の風物詩「八幡市民マラソン大会」が12月1日、今年も市民スポーツ公園を発着点に開催され、市内外から参加した1547人のランナーたちが八幡のまちを駆け抜けた。

同大会は、体育協会や市などで構成される大会実行委員会が毎年主催。ハーフ、10km、3km、2kmのコースが設けられ、性別や年齢別の15部門で実施されました。

晴天に恵まれ、少し暖かな陽気の中、トップバッターでハーフのランナーたちがスタート。スターターの号砲が鳴り響くと、勢いよく走りだし、応援に手を振るなどしながら八幡のまちへ飛び出していきま

ました。また、親子部門では小学2年生以下の子どもたちが、2kmのコースに挑戦。日頃の練習の成果を発揮しようと、親子で最後まで一生懸命に走り抜き、手をつないでゴールしていました。



市内の小・中学生、高校生32人が市をより良くする方法を考える「八幡子ども会議」が12月21日、福祉会館で行われ、子どもたちがとりまとめたアイデアを堀口市長に提言しました。同会議は、立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携して平成16年から毎年実施。子どもたちが委員となって4つの班に分かれ、班ごとに設定したテーマに沿って調査や取材などを重ねてきました。

観光をテーマにした小学生班は、新しい観光マップを提言。各スポットへの行き方が一目で

自由な発想で市長に提言

八幡子ども会議 新観光マップや特産品

わかるよう、バスの路線図と一緒に盛り込むなど工夫しました。

ほかにも、八幡の特産品であるお茶などを使ったふりかけやタピオカドリンクの開発、健康づくりのための八幡体操の考案など、特色豊かな提言が発表されました。

観光マップを提言した橋本小6年の中村陽くん(11)は「取材が大変でしたけど、受け入れてもらったことがうれしかったです。八幡市に観光客が増えてほしいです」と話していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

「人生100年時代」へみらいき健幸講座

ウォーキングや筋トレの重要性について講演

「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」の一環として「みらいき健幸講座」を12月16日、文化センター小ホールで開催し、筑波大学大学院の久野譜也教授が来場者約150人に向けて講演しました。

同プロジェクトは、参加者に活動量計を配布し、日々の歩数などに応じてポイントを付与することで、健康づくりに取り組んでもらおうと、市が企画しました。

統計や予測から「『人生100年時代』というのは、誇張ではなく現実」と話す久野教授。寝

たきりにならずに、人生を最後まで元気に過ごすためには、日々の運動を習慣にすることが大事だと話しました。

その一つとして、ウォーキングを紹介。歩くことで、認知症や動脈硬化が予防できるなどの効果を解説しました。

また、筋肉量が減ると立つことなどが難しくなることから、筋トレも重要だと説明。来場者たちは、テレビ番組で話題になったスクワットも体験するなど、講座を通して、健康づくりへの意識をさらに高めていました。



来場者を前に講演する久野教授

今月のこの人 防災新聞作成で府知事賞

八木さんは、夏休みに「防災新聞～地震編～」を作成し、京都新聞小・中学生新聞コンクール2019 京都府知事賞を受賞しました。

テーマは、学校で劇をして興味を持った「防災」。地震が起こったときにすべき行動や京都府内の活断層図=写真、京都新聞社提供=、京都市市民防災センターについてなどが、四つ切画用紙1枚に手書きでまとめられています。

作成にあたって、実

際に京都市市民防災センターなどを訪れ、そこで見て感じたことを、イラストや写真を使いながら、八木さん自身の言葉で伝えています。

「新聞づくりを通して、地震がどれほどこわいか、備えることの大事さを知りました」と話す八木さん。「防災以外に、他のテーマの新聞も作ってみたいです」と、自分の得意なことを生かしながら、絵本作家になりたいという夢に向かって、これからも色々なことにチャレンジしていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。秘書広報課へお問合せください。



やぎりず 八木 玲汐さん

京都新聞小・中学生新聞コンクール2019 京都府知事賞受賞。読書や絵を描くことが好き。小学5年生。

△プロフィール△

